

会議議事録

会議の名称	令和８年度 第２回 江田島市こども政策推進会議
開催日時	令和８年９月２９日（火）１０：００～１２：０５
開催場所	市役所本庁 ４０３会議室
出席者氏名	重川会長、大越職務代理、内沖委員、爲政委員、眞澤委員、黒川委員、後藤委員、寛本委員、小島委員、小宇根（康）委員
欠席者氏名	小宇根（美）委員、山下委員、桂委員、佐久間委員、尾白委員
事務局職員氏名	福祉保健部 山田部長、子育て支援課 白地課長、山崎課長補佐、室主任主事
会議次第	１ 開会 ２ 会長あいさつ ３ 市長あいさつ ４ 諮問 ５ 議事 今後の保育施設のあり方について【資料№.１】 ６ その他 ７ 閉会
配付資料	次第 委員名簿 配席図 会議規則 資料№.１ 今後の保育施設のあり方について

議事内容	
事務局	・ 開会 ・ 出席者の確認
会長	・ あいさつ
市長	・ あいさつ
事務局（進行）	・ 市長から会長へ、諮問を行う。
市長、会長	・ 諮問
市長	・ 退席
事務局（進行）	・ 配布資料の確認
会長（進行）	・ 議題「今後の保育施設のあり方について」、事務局から説明願いたい。
事務局	・ 資料No.1により、説明
会長（進行）	・ 意見や質問があれば、伺いたい。
委員	・ 資料No.1の2ページに「基準案の根拠」として、小規模保育事業の利用定員、厚生省通知にある分園の規模がある。本市の場合、どちらに該当するのか。
事務局	・ 現在は、どちらにも該当しない。これから基準となる人数を協議していくことになるが、これらの数値以下の基準が適切なものであると考えている。
委員	・ 案で示した分園の15人以下は、小規模保育事業の利用定員の6人以上19人以下から導き出した数値なのか。
事務局	・ お見込みのとおりである。
委員	・ 保育料を無償化にした場合、市の持ち出しが全額なのか。それとも、国、県等から補助があるのか。
事務局	・ 国、県等からの補助がないので、財源としては、休園、廃園等によって削減される費用を保育料収入に充てることを考えている。
委員	・ 市単独で保育料を無償化にするか否かを考えるのか。
事務局	・ お見込みのとおりである。
委員	・ 休園、分園等を当てにして無償化するというのは、甘く感じる。例えば、資料No.1の3ページの「イメージ図」では、令和10年度には、認定こども園みたかが9人になっている。外国人の児童は、日本人の児童より多い可能性もあるし、誰かが帰国しても、新たに就労で入ってくる人もいる。その辺りを想定しているのか。
事務局	・ 外国人の方が就労で新たに来日するなどして、入園児童数が増えた場合、休園している園が分園に戻ることはあるが、分園している園が本園に戻ることはないという想定で案を作成している。 ・ 本市の財政状況では、何かの事業を整理して生み出された財源により、新たな事業を行うことが前提である。施設の最適化、施設維持管理費の削減によって、利用者の利便性の向上、子育て支援に資する事業展開など、考えられる案を提示している。
委員	・ 財政のことはよく分からないが、認定こども園を単独で考えると、そのような狭

	い考え方になるのではないかと。難しいと思うが、無駄使いしている事業があると思うので、市全体で総点検する必要がある。
事務局	本市には、全体的な視点では、行財政改革大綱と行財政経営計画がある。福祉分野以外の事務事業を総点検して、重点的に子育て支援を行うという考え方もある。こども政策推進会議の論点では、施設の最適化、施設維持管理費の削減によって生み出された財源を支援の拡充につなげたいと考えている。
委員	保育施設の予算について、毎年度、同じくらいの額が計上されると見越して、使わなくなった予算を無償化に充てるのか。その使わなくなった予算が削られた場合は、また考えないといけないのか。
事務局	お見込みのとおりである。もし、予算が削られれば、無償化が難しくなる。現状では、削減額が無償化に充てる額を大きく上回る計算になる。しかし、使わなくなった予算が削られる可能性は、否定できない。
委員	- 保育施設のあり方を検討する話が、予算のことだけになっている。これを地域や保護者に説明するとき、絶対に納得してもらえない。 - このままだと困ったことが起きる、こどもの人数が少な過ぎたら教育・保育ができない、ある程度の園児数が必要である。だから、保育施設のあり方を考えないといけない。 - しかし、こどもの成長という視点が抜けている。予算も大事だが、説得力に欠けている。 - 認定こども園には、小・中学校の学習指導要領のようなものがあるのか。
委員	保育所保育指針があり、こどもの育ちがどうあるべきか、保育士がどう対応すべきかが示されている。
委員	少人数でも、その指針で示したものが達成できるのか。それとも、ある程度の人数がいないと、達成できないものなのか。
委員	ある程度の人数がいることを想定して、指針が示されている。具体的な人数の基準は、書かれていない。
委員	学校では、何人が望ましいという基準がある。
委員	0歳から6歳までは、発達の差がある。3歳くらいまでは、家庭で保護者に育てられるのがベターだと思う。友達を求めていくのは、4、5歳からである。1対1で接するのがよい年齢と集団の中で育ていく年齢がある。発達段階が急激に変わる中で、こどもをどう育てていくかというときに、保育所保育指針でここまで育つようにという目標はあるが、10人のこどもがいれば、課題を持っていたり、支援が必要だったり、いろんなこどもがいる。学校とは異なるので、人数にこだわってほしくない。
委員	本市では、3歳から無償化になっているので、3歳から認定こども園に入園させる保護者が多い。0歳から2歳までの場合、入園させると保育料がかかり、働いた分が保育料に消えていくので、入園させないという話を聞く。0歳から2歳までの子育てをしている方の行き場は、にこにこハウス一択になっている。認定こども園に入れて働ける子育てよりも、子育てイベント、民間の芋畑の活用など、地域を巻き込んだ魅力化により、生み出した財源を親子でいると楽しいことに使えたらよい。今の社会は、産み、育て、働き、母親に比重がかかっているの

	で、明るい未来をつくっていく子どもたちを育てている方に財源を使っていただけたらと思う。
委員	私は、小学校と同じようにとは思っていない。委員は、分園や統合に反対なのか。それとも、0歳から3歳までを残して、4歳から6歳までを統合するということか。
委員	- 年齢で言わないでほしいということである。人数が減って限界が来たときにどうするかは、現在考えており、それもありかなと思う。ひとりのこどものことを分かった上で人数設定するのであれば、それもありかなと思う。 - 資料No.1には、いろいろ書いているが、納得できない。人数が少ないから、お金が少ないからではなく、保育実態は違うので、もっと深掘りしないといけない。
委員	- 保育士から意見集約した。 [小さい園が残る場合のメリット] - 家庭的な保育ができる。施設の使い勝手がよい。古い園舎は段差が多いので、小さい子は、自然に体幹が鍛えられる。自然に触れられる。保育室が広い。空き教室を利用した柔軟な保育ができる。地域の人との関わりを持ちやすい。こどもの興味に合わせて保育を組み立てやすい。一人ひとりに合った活動が提供でき、挑戦させやすい。保護者の変化に気付きやすい。自然と異年齢での関わりができる。少人数であるため、待つ時間が少なくて済む。使いたい遊具で遊びに打ち込める。発達課題がある子どもにとっては、自分を発揮しやすい。 [小さい園が残る場合のデメリット] - 集団遊びができない（年長児及び年中児）。多様な考えに触れることができない（年長児及び年中児）。施設の環境整備が大変である。こども同士の刺激が少ない。発表会で劇のセリフを覚えるときなど、こども1人当たりの負担が多くなる。気の合う友達ができにくい。友達を選べない。 [大きい園に統合された場合のメリット] - 多くの子どもと触れ合える。施設が新しく、快適である。集団遊びができる。多様性に触れられる。 [大きい園に統合された場合のデメリット] - 自宅から遠くなる。送迎が難しい人が出てくる。歩いて送迎ができなくなり、困る人が出てくる。地域から認定こども園がなくなる。3歳未満児が大勢の中で過ごすことになる。
会長	分園、休園、廃園という3つの段階で、それぞれの基準が示されている。分園は、園長がいらないが、これまでどおり通園して保育サービスを受けることができるものだと理解している。廃園は、園がなくなる。休園になると、建物があっても、誰も利用していない状態である。園児数が増えれば、分園に戻すという手立てがある。これから園児数が増えることが考えにくいので、休園はなくてもよいのかなと思う。事務局では、どのように考えているのか。
事務局	休園になったとき、その園に通園していた園児は、他の園に行くことになると思われる。そうすると、行った先の園での生活が主になり、新たな友達もできるので、分園に戻ったとしても、元の園に転園することは考えにくい。そう考えると、休園は、あってないような面もあるが、事務局内で議論する中で、分

	園の次に廃園にすると、利用者にとって厳しいのではと考えて、ソフトランディングという形で、休園という基準を設けた。
会長（進行）	・本市の小・中学校の場合、廃校という措置を採っていなかったと思う。 ・園バスについても、時間や場所を決めるなど、もっと詰めないといけない。 ・事務局としては、様々なことを法律などに基づいて示さないといけないので、資料に整理する難しさがある。 ・子育ては、定数だけでよいのかという点がある。もっと詰めていかないといけない。いろんな課題が出てくる。
会長	・今年度から始まった「こども誰でも通園制度」は、どのような状況なのか。
委員	・認定こども園えたじまと認定こども園のうみの2園で実施しており、3歳未満児を対象に、1か月10時間の利用ができる。両園とも利用実績があるが、3歳未満児のため、慣れるまでは泣くので、細かい対応が必要となる。
委員	・統合後に園児がどのようにケアされるのか議論が必要であるし、お金や人数で統廃合が進んでいくのは残念である。また、廃園となった方の不安が拭えづらいと感じた。 ・お金の話に戻るが、6,000万円くらいの削減額が生み出されたとして、その全てが保育に充てられるとは思わない。削減により生み出された予算のキャパシティにはゆとりがあるので、無償化のほか、より魅力ある保育や、地域に認定こども園がなくなった方にフォローできる施策を打ち出せるよう、納得感のあるものになればよい。
委員	・お金の話になるが、資料No.1の3ページの「イメージ図」について、この案が実行された場合、早くて令和13年度に、認定こども園がひとつ廃園になる。令和13年度にならないと、施設維持管理費が削減されないと思われるが、保育料の無償化の開始時期について、どのように考えているのか。
事務局	・分園した場合は、施設長1人の人件費を削減できる。休園した場合は、人件費と施設の修繕費を削減できる。これらにより、無償化の財源を確保できると考えている。
委員	・分園、休園、廃園以外の意見が出ていないので、その他の事項については、賛成されているのかなと受け取った。 ・こども一人ひとりに合った保育施設のあり方をイメージできればよいが、制度のことなので、どこかで線引きが必要である。基準となる人数を考えていくとして、「何人以下になったら、分園の対象として考えていく」というような曖昧さを残してもよいのか。それとも「必ず」という表現にするのか。
事務局	・今回の案は、保育サービスを将来的に残していくにはどうしたらよいかという視点で設定している。分園、休園、廃園という段階を踏んでいく中で、その都度、考えていたら、何も進まなくなってしまう。基準となる人数は、検討が必要だが、ある程度のルールを設けるため、案を示した。大前提としては、例えば、15人以下であれば、分園の候補にあげていく。その中で、諸事情があれば、検討する。
委員	・第1回のこども政策推進会議で出された分園のデメリットとして、施設長が2園を管理することの難しさがあった。これが解消されて、ここにいる委員が納得すれば、一気に休園に進むのかなと思う。このデメリットは、どうなっているのか。

事務局	・園長が不在になることについては、現在も、副園長が代わりを務めている。その辺りの連携は、園長会議、副園長会議で意識統一を進めているので、園長不在による大きな混乱が生じることは考えていない。
会長	・園長会議では、今後の保育施設のあり方について、話をしているのか。
事務局	・園長会議では、前回の統廃合のときの意見集約をしたり、分園等になった場合の園長・副園長のあり方を投げかけたりしている。現時点で具体的なことが決まっていないので、あくまでも想定段階で意見を求めている。協議が進んでいけば、具体的なことを話していくことになる。
会長（進行）	・分園、統廃合があれば、保護者のリスクや保育士の配置を考えていくことが大切だと思う。 ・園バスがあれば、時間などを詰めていかないといけない。 ・市として、人数が少ないから統廃合することはないと思う。こどもたちをどう育てていくのかを考えていく必要がある。 ・他に意見があれば、伺いたい。
委員	・民間委託は、利益を求めていくことになるので、反対の立場である。市が運営してほしい。認定こども園みたくは、光熱水費もかかるし、環境整備も大変である。第一段階で分園して、施設共用モデルにより三高小学校の空き教室を改修し、異年齢交流、専門職による対応、情操教育などを行うことに知恵を出して、なんとかできないかと思う。人間教育に利潤を求めると、弊害が出ると思う。中学校が統合されると、小学校も認定こども園も、事前に統合先の地区に通うようになった例がある。これは、行政がつくるものではない。知恵を出し合って、こどもにとって最善で保護者が働きやすい条件ができると思う。
会長（進行）	・この会議は、こどもを育てるためにどうしたよいかを考えるもので、統廃合するための会議ではない。
会長（進行）	・分園、休園、廃園という基準が示されているが、休園すれば、建物はあっても、誰も登園しない。しかし、何かあれば、職員が行かなければならず、誰もいない施設を管理しなければならない。建物があることで、施設維持管理費がかかる。そういう意味で、果たして休園が必要なのだろうかと思うが、他の委員は、いかがか。
委員	・切串交流プラザで行われる高齢者のサロンでは、施設の2階が認定こども園きりくしなので、園児との交流があり、お互いに喜んでいる。こういうことは、地域の活性化につながるし、小さい園のよさだと思う。大きい園に統合するのもよいかもしれないが、できれば小さい園で長く続いてほしい。
委員	・数値を追ってみると、分園の15人以下から5人減って休園になるのは、半分は統合のようで、ステップが早過ぎる。分園になっても、園児たちの雰囲気はそんなに変わらないと思う。園児が地域に出て行けば、高齢者も喜ぶので、そこに認定こども園があることのよさがある。そう考えると、10人以下で休園にするよりも、5人以下になるまで分園で粘ってもよいと思う。
会長	・分園になると、園長が2園を掛け持ちするような状態になる。 ・学校では、休校する例は、あまりないと思う。
委員	・呉市では、かつて休校した例があった。休校して復活したことはない。 ・休園後、園児数が増えることがあるかもしれない。廃園にしたら、復活できないの

	で、休園があってもよいと思う。
会長（進行）	- 復活できることは、メリットである。しかし、復活するまでの間、その状態を維持するために費用がかかってしまう。行政である以上、市民のために無駄なお金を使わないので、事務局には、このように数値を出してもらっている。無駄なお金を使わずに、市民のために使うのが第一条件だと思う。決して少人数だから統合するのではなく、子どもたちにとって何が最善なのか、委員の皆様意見をお聞きして、会議として答申を出すことになる。 - 他に意見があれば、伺いたい。
委員	保護者が「休園」という言葉をどのように捉えるだろうか。入園申込みのときに、休園している園を希望するだろうか。
会長	休園しても、募集するのか。
事務局	資料№.1の2ページの「基準適用イメージ」の表に「休園中の園を希望した児童が」とある。毎年度行う入園希望調査において、休園中の園を第一希望にすることができる。ただし、基準の人数に届かないと、分園に復活しない。
会長	休園中は、職員がいらないのではないか。
事務局	希望してすぐに入園できるのではなく、翌年度の適用になる。希望者が基準を超えて分園に復活するのは、次の4月になる。それまでに職員の配置を整えることになる。
委員	休園の基準を設けるよりも、分園の基準となる人数を低くする方がよいと思う。休園中の園に行きたい人は、余程でないといけないと思う。施設維持管理費を出し続けるのは、大変なことになりそうである。
事務局	- 資料№.1の2ページの「基準適用イメージ」の表にある15人以下、10人以下、5人以下という数値は、分園、休園、廃園という3段階にした場合の案である。休園をなくして、分園と廃園だけにした場合、その基準となる人数は、改めて考えなければならない。 - 今後、基準を詰めていくに当たり、この3段階にするのか、又は休園をなくすのかを決めることができれば、次の案を示しやすくなるので、検討していただきたい。
会長（進行）	委員の皆様、いかが。
委員	- 休園の基準が必要か否かについて、説明を聞く中で、関係者の精神的な負担を考えると、休園が必要なのかなという印象を受けた。一方で、休園がないという選択肢もあるかもしれない。 - 分園、休園、廃園の基準となる人数が、案で示されているが、実際にそうなったときの分かりやすい物差しは、負担の部分だと思う。休園の基準の有無やそれぞれの基準の人数を変えた場合で、施設維持管理費と保育料収入がどう変わってくるのか、3パターンくらいの事例を示していただくと、判断しやすい。この場で休園の基準が必要か否かを判断するには、材料が足りない。
事務局	基準の人数が何人のときにこれくらいの費用がかかるというのは、お示しできる。
委員	限られた会議の場で、その事例を示していただいた上で、個別にどういう対応が必要か、ある程度は数値で把握できる部分と合わせて、擦り合わせた方がよい。

委員	・休園した場合の施設維持管理費がどのくらいかかるのか示せるか。
事務局	・休園した場合にどうなるのか、メリット、デメリットを含めて、数値で示せるものなど、より具体的に示していく。 ・次回に向けて、分園、休園、廃園のイメージを深掘りしていくということによるしいか。
会長（進行）	・そのように進めていくこととする。 ・他に意見があれば、伺いたい。
委員	・これまでに統合や廃園した園について、中町保育園の例で構わないので、どのような手続を経たのか、説明会を開催したのか否か、開催した場合にはどのような意見が出たのか、教えていただきたい。急がないので、会議のどこかのタイミングで教えていただきたい。
会長（進行）	・この件について、事務局で調査をお願いする。 ・他に意見があれば、伺いたい。
委員	・施設共用モデルについて、資料No.1の4ページでは、「課題が多い」とある。全然考えられないくらい課題が多いのか、乗り越えられる課題なのか分からないが、例えば、認定こども園みたかについて、共用して分園化した方がコストが低いのであれば、そのような案があればよいと思ったので、数値で示していただきたい。
事務局	・次回、認定こども園みたかを例として、施設共用モデルの実現性について、費用面、基準面などを満たしていく必要があるので、より具体的に分かるものを示させていただく。
会長（進行）	・事務局に何うが、欠席者からの意見シートが提出されているか。
事務局	・今回は、提出されていない。
会長（進行）	・他に何かあれば、伺いたい。
会長（進行）	・ないようである。それでは、本日予定していた全ての議事が終了したので、進行を事務局へお返しする。
事務局（進行）	・いただいた御意見をもとに整理して、次回の会議に臨むこととする。次回は、12月を候補として、改めて日程調整を行う。
事務局	・閉会

以上